

令和7年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：33009

学校名：栄南中学校

	令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 ＜男子＞	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 上体起こし、長座体前屈、反復横跳び 20m シャトルラン、50m 走、立ち幅跳び ハンドボール投げ	○前回の記録より下回った種目 握力	・思考する場面を設けることで自己の課題発見を促すとともに、「適切な運動量の確保」を意識していることの効果が表れている。
体力・運動能力 ＜女子＞	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、長座体前屈、反復横跳び 20m シャトルラン、50m 走、立ち幅跳び	○前回の記録より下回った種目 上体起こし、ハンドボール投げ	・主運動につながる準備体操を意識することや、「何のために」や「どこを伸ばしているか」を理解することで、必要感が伴った準備運動とする必要がある。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	・「保健体育で、ICT を使って学習することで、できたりわかったりすることがある」と回答した割合 R5 男子 64.6% 女子 52.8% → R6 男子 82.1 女子 70.4%	・体育の授業を除き、1 週間の総運動時間が 60 分未満の「ほとんど運動しない生徒」の割合 R5 男子 21% 女子 35.7% → R6 男子 12.5% 女子 32.9%	・ICT を使用した保健体育科の学習が、「できる」や「楽しさ」の実感につながっている。 ・運動をしない生徒の割合は依然として高い。
三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実		③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実
	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組		
具体的な取組	○運動の楽しさに触れられる「課題探究的な学習」の推進 ・主運動につながる準備体操や補強運動を取り入れるとともに、その日の活動に応じて、主体的に準備運動を選択する取組の実施。 ・chromebook を活用し、自らの動作確認や、よい動作のポイントを伝えあう場を設定し「できる」や「楽しさ」の実感へとつなげる。	○三間（仲間、時間、空間）の創出 ○子どもによる運動機会を創出する取組の立案、実現 ・保体委員会による「昼休み企画」を推進し、体育館やグラウンド開放を利用して、気軽に仲間と運動やスポーツに親しんだり、体力を向上させたりすることのできる場を創出する。 ・スポーツ大会等の学年行事を、生徒たちが主体的に企画することで、運動の楽しさに気付ける場面を増やす。	○各教科の内容を関連付けた健康教育の推進 ○食に関する指導の充実 ・保健体育科や家庭科で学ぶ「食生活」において、栄養教諭による授業を行ったり、アドバイスを参考する機会をつくる。 ・リザーブ給食やお昼の放送、給食日より等を通じて、栄養や食の健康に関する啓発を行う。
家庭・地域との連携・協働	・部活動を通して近隣小学校児童と交流できる場面を設け、双方が運動に主体的に親しむ機会の創出を図る。 ・スクールカウンセラーや外部からの講師を招き、発達段階に応じた性に関する正しい知識、健康への自律的態度を育成する。		